

「2009年ARC Program Review Meeting」および「ICA & JWCC Joint Session」を開催

日本銅センターとICA（国際銅協会）は去る5月18日、19日の両日、東京港区のホテル日航東京で、「2009年度ARC Program Review Meeting」を開催した。それに引き続き19日午後に初めての試みである「ICAとJWCC（日本銅加工業者協議会）のJoint Session」を開催した。

今回日本で初めて開催されたARC Program Review Meetingにはアジア地区のICAメンバー8社とICA副社長Tony Leaおよび各センター代表者12名が出席し、本年度遂行中の各プロジェクトの経過および今後の方針について熱心な討議が行われた。

19日午後にはICAと日本の銅加工業者との交流を深める目的で初の「ICA&JWCC Joint Session」が開催された。

このJoint Sessionには国内からは銅加工業（伸銅と電線）・ユーザー業界・関係官庁ならびに関係協会等60数名の参加があり、7名の講演を通して総勢80数名による銅需要拡大という共通課題について活発な意見交換が行われた。



講演内容

ICA 市場開拓プログラム概要および銅代替状況調査結果
— ICA Tony Lea

日本経済の動向と見通し
— 学習院大学 宮川副学長

日本の技術政策動向
— 経産省非鉄金属課 瀧川課長補佐

ICA/JCDA 共同プロジェクトの概要
— 日本銅センター 和田 ICA 担当事務局長

米国のエネルギー政策と高効率モーターの事例
— CDA David Brender

日本の電線工業の現状と展望
— 日本電線工業会 大橋会長

日本の伸銅工業の現状と展望
— 日本伸銅協会 中山会長

NEWS

NEWS
銅センターニュース

定時総会、日本銅センター賞授賞式開催

日本銅センターでは、去る5月25日、東京コートヤード・マリオット銀座東武ホテルにおいて定時総会および理事会を開催し、下記の通り役員を選出した。

- 〈新任〉 会長 岡田昌徳 日本鉱業協会会長、日鉱金属(株)代表取締役社長
- 〈新任〉 副会長 吉田政雄 日本伸銅協会会長、古河電気工業(株)代表取締役社長
- 〈再任〉 副会長 大橋一彦 (社)日本電線工業会会長、(株)フジクラ取締役会長
- 〈再任〉 専務理事 日高俊信 日本伸銅協会専務理事



岡田新会長

また、同日、同会場において第36回日本銅センター賞の授賞式を開催した。受賞者は次の通り。

- (株)ノーリツ (ガス・石油機器関連製品の伸銅品使用による長年の需要貢献)
- (株)竹中工務店 (循環給湯配管システムにおける銅管の潰食防止技術の開発)
生産本部設備管理部部長 大久保泰和、東京本店設備部部長 付表 幸雄、
技術研究所建設技術研究部部長 付山 山手利博
- 日本フリーランスインテリアコーディネーター協会 (銅製品の普及促進及びイメージアップに貢献)
- (株)ユニオン (建築金物において銅合金の普及促進及び研究・開発・広報活動に貢献)
代表取締役社長 立野純三



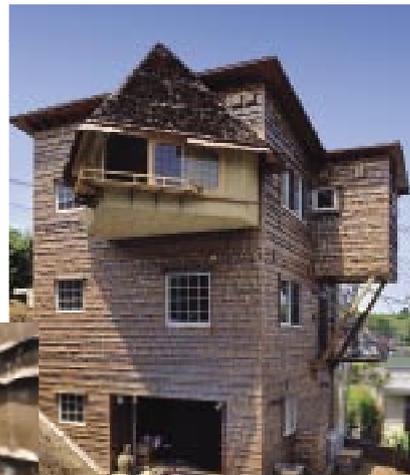
日本銅センター賞受賞者

屋根・壁全面銅製の「カパーハウス」がお目見え

このほど東京・国分寺市に屋根、壁全面に銅板を使用した戸建て住宅が出現した。このS氏邸は、藤森照信氏+大島信道氏（大島アトリエ）設計になるもので、壁面の銅板は手加工（手もみ）による“ヒダ”のような模様が施されており、デニムのようなやわらかさをこの家に与えている。3階部分には茶室が住宅壁面より突出し、ユニークな構造となっている。設計を担当された大島信道氏は、「紙・木・土・石・銅」など自然素材にこだわった住まいとした。温もりのあるあたたかさや風格のある住まいとすることができたと言われる。



大嶋信道氏



手もみ加工された銅壁面

2010 FIFAワールドカップに「日本製銅ホイッスル」が採用

このほど2010年に開催されるFIFAワールドカップ南アフリカ大会で使用されるホイッスルに日本製のものが採用されることが決まった。これは本誌でもご紹介した野田鶴声社製の製品で、86年メキシコ大会から続く偉業となる。銅、ニッケル、クロムに金メッキを加えた4層構造からなり、さらにこれに13工程もの仕上げを施しており、音に加え美しさも秀逸である。南アフリカの空に日本製ホイッスルが鳴り響く、その日が待ち遠しい。



“2009 interior lifestyle”展に新光金属が出展

去る6月3日～5日に東京ビッグサイトで開催された“2009 interior lifestyle”展に「雪・月・花」をテーマに新光金属が出展した。3つのキーワードを3大公園といわれる金沢兼六園（雪）、岡山後楽園（月）、水戸偕楽園（花）になぞらえ、これを酒器で表現したもの。銅器具加工では屈指の同社技術が随所に感じられるブースには多くの来場者の熱い視線が寄せられた。



編集後記

今季は“多用途に使用される銅”の話題を幅広く取材。為になります。ぜひ全目次のご一読を！

【夏の思い出】

この夏、霞が関の中央官庁で「夏休み子ども見学デー」を開催。経済産業省・非鉄金属課による各種展示ブースが反響を呼んだ。

中でも厚さ0.15ミリの銅板を素材に“折り鶴”作りに挑戦する体験学習コーナーが一番人気を

博した。多くの子ども達も参加。本物の板金道具を使い、初めて「銅」にさわって、折り曲げ、打たく。

完成した銅の輝きの鶴に魅せられた“この夏一番の思い出”に。

同コーナーで本誌「銅」も理解の一助として配布しました。

編集デスク 齊藤久嘉(日本銅センター)

情報発信委員会

〈委員長〉秋元伸二(古河電気工業(株))
 〈委員〉 鉾山/塚本弘之(三菱マテリアル(株))、植村寛周(バンバンフィック・カップパー(株))、永田禎彦(日本鋳業協会) 伸銅/堀田修司((株)神戸製鋼所)、谷敬三(日本伸銅協会) 電線/湯谷彰((株)フジクラ)、後藤信之((社)日本電線工業会) (日本銅センター) 田中和雄、宮田充